

2016年9月16日

京都府知事 山田啓二様

日本共産党京都府会議員団
団長 前窪 義由紀

京都スタジアム（仮称）実施設計業務の募集の中止、計画の白紙撤回を求める申し入れ

京都府は、9月15日、京都スタジアム（仮称）の実実施設計等業務の募集要領を公表し、公募型プロポーザルでの委託先を募集すると発表した。しかし、亀岡の京都スタジアム計画に対しては、洪水被害を受けた亀岡市民をはじめ、広範な府民、環境保全を求める専門家、関係者から大きな批判と見直しを求める声が上がっており、こうした府民、関係者の声を無視して、建設計画を強行することは断じて許されない。

京都スタジアムの当初予定地は、国の天然記念物アユモドキが絶滅しかねないことなどから計画が破たんし、多くの自然保護団体の意見を無視して強引に進めてきた知事の責任が問われているのである。新たな予定地も、環境大臣がアユモドキについて「亀岡駅北地区とその周辺を一体として捉えて保全する必要がある」と指摘されており、アユモドキの保全上慎重な検討が必要な場所である。

治水問題でも、元京都大学防災研究所所長の今本氏が「川の中から川の中へ動かしたただけであり、賛成できない」ときびしく批判されている。知事は、盛り土をするから大丈夫と強弁したが、盛り土によってより広範囲に水害を及ぼす危険もある。平成25年の台風18号の水害に見舞われた亀岡市民は、「遊水地へのスタジアム建設は周辺の水害をさらに広げる」として亀岡駅北側の開発中止を求める2つの行政訴訟を起こし審理中である。

こうした状況は無視し、府議会に対しても何の説明もなく建設予定地を一方的に変更し、実施設計業務等委託の募集をかけ、建設計画を強引に進める府政運営は、とうてい認められない。

したがって、知事におかれては、実施設計業務等の募集をただちに中止し、京都スタジアム計画を白紙に戻し、改めて一から検討し直すよう強く求めるものである。以上申し入れる。